



# 士別ロータリークラブ会報

創立 1960・3・24 RI第 2500 地区

Vol. 24 No. 2842

## 2023-2024年度国際ロータリーのテーマ

2023-2024年度R I 会長 ゴードンR.マッキナリー

## 2023-2024年度R I 第2500地区テーマ

ガバナー鶴見誠一郎

今こそ変わる勇気を！さあ、一歩前へ

## 2023-2024年度士別ロータリースローガン

【勇気ある行動で友情と奉仕の実践へ】

～ Let's begin ～



世界に希望を生み出そう

- 会 長 / 菊地 昭通
- 副会長 / 山下 卓己
- 幹 事 / 福島 和秀
- 例会場 / 士別グランドホテル
- 例会日 / 毎週月曜日 12:10～13:00

2500地区ホームページ <http://rid2500.jp/>

士別RC <http://www.douhoku.jp/sibeturc/>

RIホームページ <https://www.rotary.org>

## 第2929回例会 2024年 2月 5日(月)

### 今日のプログラム

・普通例会・誕生祝・理事会

### 前回(1月29日)の記録・夜間例会

司 会 志村孝幸 会場監督  
齊 唱 それでこそロータリー  
本日の出席 会員 44人中 出席者 44人 出席率 100%  
本日の欠席

メイクアップ  
ビ ジ タ ー  
ゲ ス ト

ニコニコBOX

累計 288,000円

### 例会予定

#### ■ 2月例会日 [平和と紛争予防/紛争解決月間]

- 2月 5日(月) 普通例会・理事会
- 2月 12日(月) 休会 (建国記念日振替)
- 2月 19日(月) 普通例会
- 2月 26日(月) 夜間例会

#### ■ 3月例会日 [水と衛生月間]

- 3月 4日(月) 普通例会・理事会
- 3月 11日(月) 普通例会
- 3月 18日(月) 早朝例会
- 3月 25日(月) 夜間例会

## ■会務報告……………菊地 昭通会長

今から100年前の流言飛語(りゅうげんひご)が飛び交う関東大震災直後、いわれなき理由から朝鮮人や中国人が殺害されました。しかし、悲劇は千葉県でも起きていた。知られざる100年前の悲劇、福田村事件であります。

大正12年9月6日、関東大震災から6日過ぎたこの日、千葉県葛飾郡福田村(現野田市)で事件が起きました。

香川県から大八車に日用品を積んだ15人の行商人の一行がこの地に訪れ通りかかった。福田村三ッ堀の利根川の渡し場に近い香取神社に彼らが着いたのは午前10時頃、この行商人の一行は五家族で構成され一人が渡し場で渡し賃の交渉をする間、足の不自由な若い夫婦と1歳の乳児など6人は鳥居の脇で涼をとり、15メートルほど離れた雑貨屋の前で、20歳代の夫婦二組と2歳から6歳までの子供が3人、24歳と28歳の青年が床机に腰を下ろしていた。交渉が始まってすぐに、渡し場が殺気だった。「言葉が変だ」と船頭が叫ぶ。突然半鐘が鳴らされ、駐在所の巡査を先頭に竹やりや鳶口(とびぐち)、日本刀や猟銃などを手にした数十人の村の自警団があつというまに現地に集まった。「日本人か?」、「日本人じゃ」、「言葉が変だ」、「四国から来たんじゃ」、そんな会話があつたと生存者は証言している。命じられるまま君が代を唄わされたが、それでも殺気だった男たちは納得しない。巡査が本庁の指示を仰ぐために現場を離れた時、突然男たちは行商人の一行に襲いかかった。乳飲み子抱いて命乞いをする母親は竹やりで全身を突かれ、男は鳶口で頭を割られ、泳いで逃げようとした者は小舟で追われて日本刀で膾(なます)切りにされた。

悲劇はしばらく続き、雑貨屋の前にいた9人は全員殺された。1人は妊婦だったという。鳥居の側で呆然と事態を見つめるしかなかつた6人は、針金や縄で後手に縛られ、川べりに引き立てられた。乳児を抱いたまま縛られた母親を後ろから蹴り上げながら、1人の男が「早く投げこんじまえ!」と叫ぶ。呼応した自警団の面々が縛り上げられたままの6人を川に投げ込もうとした時、馬で駆け付けた野田署の警官が事態を止めた。河原には女子供を含む9つの惨殺死体が転がり、厳しい残暑の日差しに照らされていた。

現場は福田村だったが、襲撃したのは同村と隣の田中村(現柏市)の自警団だった。数十人いたと見られる自警団の内、8人だけが殺人罪で逮捕されるが、昭和

天皇即位に伴う恩赦ですぐに全員釈放される。取り調べの検事が「加害者たちに悪意はない」と新聞に語り、弁護費用は村費で負担され家族には見舞金もあてがわれた。主犯格の1人は出所後村長になり、後に合併後は市議にも選ばれた。

これだけの虐殺なのに事件そのものや刑罰の軽さを問題視する人もほとんどなく、マスコミもなぜか事件究明については及び腰だった。不思議なことに被害者の遺族からも抗議や不満はほとんどなく、現場には慰霊碑すら建立されず、こうして福田村事件はいつしか歴史の闇に葬られ、思い出す人すらいない時代が何十年とも続いてきたが1986年、朝日新聞の報道で再び知られることになりました。

この事件の時代背景を説明すると、震災勃発後朝鮮人が井戸に毒を投げ込んだというデマが関東地域では飛び交い、戒厳令が布告され6,000人を超える朝鮮人が惨殺されました。福田村で襲撃された行商の一行は日本人であり、全員が香川県三豊(みとよし)郡内の被差別部落の出身者であった。仕事を制限される彼らにとって行商は大事な生業であった。事件が加害者側である野田市はもちろん被害者の地元の香川でも、なかつたことのように扱われた背景には、おそらくこの事情があつたのではないかとされています。最後に残った生存者の証言をきっかけに、昨年「福田村事件を心に刻む会」が設立されました。しかし未だにメディアの対応は鈍く「刻む会」設立にあたり、事務局は地元のマスコミに案内を出したが当日取材に訪れた社は一つもなかつたという。

この事件を検証すると、日本社会にある二つの差別意識が引き起こしたのではないかと。一つは民族的な差別意識、もう一つは職業差別であります。事件から学ぶ教訓とは何か、悲劇を引き起こした差別意識は今日も変わらず残っているのではないかと思います。なぜ今、語り継ぐことが重要なのか。100年前、差別意識を背景に朝鮮人に関する「流言」が広がった状況は、今の時代でも繰り返される恐れがあります。その理由はなぜか。そして、どうすれば流言は防げるのでしょうか。例えば災害時の心理と行動にあります。災害など非常時に流言が発生して広がる理由として、不安というのが非常に大きな要素だと考えられています。多くの人が急に不安になる時、そういった流言というのが広まりやすく、同時に多くの人が同じような心理になった時に流言が広まりやすくなります。

不安感の蓄積や流言の広がりから、弱い立場の個人や集団への攻撃に繋がることがあります。

近年では、新型コロナウイルス感染症が拡大した時に、欧米圏でアジア人に暴行を加えたりとか、日本でも営業している商店に嫌がらせをしたりといったことがあった。新型コロナウイルス感染拡大の時は不安だったし、感染が怖かった。そういった不安を抑えるために、それが誰かを攻撃対象として向かってしまったことは、紛れもない世界中で起きたことは事実です。

流言を広げないために、我々はどうすればよいのか。それは災害時には流言は発生するものだと、それを前提に考えることがまず重要で、間違った情報かもしれないと思ったらまずそれを人に伝えない。それを一人一人心がけるだけで流言の広がりというのは防ぐことができます。

こうした悲劇に繋がらないためにも、関東大震災をはじめとする歴史を知っておくことが大切なのではないのでしょうか。

時代が変わり近年、人権への意識が高まっていますがしかし、差別や偏見はヘイトスピーチやヘイトクライムとなって、今も日本社会に残ってます。

必要なのは差別や偏見が何を生むのか、歴史を知ることではないのでしょうか。

そして、未来に向けて我々ができるとは何か。負の歴史だとしても、決して目を背けてはいけません。差別意識からの克服は、負の歴史を直視し、乗り越えた先にあるのではないのでしょうか。

もちろん日本社会全体が向き合わなければならない課題でもあるのではないのでしょうか。

## ■ 幹事報告..... 福島 和秀 幹事

1. 3月3日にPETSがZOOMにて開催となり次年度の谷会長と近井幹事が出席予定となっております。
2. 能登半島地震の寄付金を会員各自より1,000円例会参加時に収めていただきたく思いますので、よろしくお願いいたします。
3. 陸上自衛隊の音楽コンサートのチケットが届いております。無料での参加が可能とのことですので希望の方は福島までご連絡ください。

### 第3回クラブ協議会



(2024, 1. 23)